SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter SMC 豊島 健治

インターネット・ビジネスウェイII
（新しい道への通り方を模索する）

前回のインターネット・レポートは電子メール（Ｅメール）について書いた。若干書き残した点があったので追記したい。

電子メールのメリットについては前回述べた通りであるが、電子メールの基本的特徴は、①文書であるということ②電子手段であること、の２点にある。

①については、口頭ではないと云うことが重要だ。特にビジネスの世界では、文書による連絡は事務効率をあげるのに役立つ。忘れたとか云った云わないとか些末なことで仕事が停滞しないような手段として有効である。

また②については、この特性を生かすことによって、つまり検索や編集が自在に出来るという特性を生かせば、受け取った文書に手を加え編集したり、それを別の人に送ったりすることが簡単にできる。

大企業から中堅企業まで「イントラネット」とか「グループウェア」などと騒いでいるのはその為である。ホワイトカラーの生産性をあげるために導入を急いでいるのだ。

電子メールについては大体以上だが、次に一番注目されている（と思われる）WWW（ワールド・ワイド・ウェブ）について述べてみたい。

WWWについては説明しないが、一般にインターネットといえばWWW（にのっているホームページ）のことを指すようだ。私も毎日少なくても一度はWWWを開く。

その目的の一つは情報の収集である。

一体インターネット上にどの位のホームページが開かれているのかは、恐らく誰も知らない。確実に云えることは、数え切れないほどのホームページがあるということだ。そんな無数の海の中から、自分や自分の会社に必要で役に立つ
情報を入手することは、しかしそれほど困難なことではない。「ヤフー」という名前を聞いたことがあると思うが、無数のサイト（ホームページアドレス）から欲しいあるいは見たいサイトを検索するソフトである。

余談になるが、このソフトは米国の学生が作成したソフトで、この一本のソフトで会社を上場しアメリカン・ドリームを実現したことで有名である。こうした検索ソフト（サーチ・エンジンと云い沢山出ている）で自分が探しているサイトを見つけることができる。

またインターネットの大きな特徴として、リンクという機能がある。この機能を使えば、一瞬のうちにサイトからサイトへ飛ぶことができる。こうした機能も使いながら様々な情報を得ることができるのだ。

私の場合、金融情報とか経済データあるいは株式市場等のマーケット情報をインターネットから得ている。今では官公庁の作成するあらゆるデータがインターネット上に公開されている（とは言い過ぎか）。ちょっと前まで日銀短観をいち早く貰うために日銀の門前に関係機関の職員が大挙並んだ（日銀短観を早く分析した者がマーケットで幾らかの勝ちを得られたから）ものだが、今では少ないらしい。当然だ。昨年の秋から日銀もインターネットで短観を公表するようになったからである。

株式市場も状況をほぼリアルタイムで掴むことが可能だ。また弁護士や公認会計士その他の専門家もホームページで相談窓口を開いたりして、誰でも気軽に利用できるようだ。

もちろんインターネットは情報の洪水そのものだ。全てを見ていたら時間がいくらあっても足らなくなる。だから情報の選別も極めて重要となるのは云うまでもない。

こうして色々なニーズを持った夥しい人々が国境を超えてインターネットを訪れる。人が集まる場所にビジネスチャンスが発生することは極めて自然なことである。

次回は具体的な事例などに言及してみたい。

§お知らせ§

東洋経済社の統計月報４月号で、「総点検／銀行１０６行の株式含み益」と題し、銀行の決算直前の保有株状況分析を行っています。

Ａ４で４枚です。ご希望があればＦＡＸで送ります。お気軽にお申し付け下さい。

TEL. 0438－53－6092 FAX. 0438－53－6096
Nifty－ID BZH10642 E－mail f3583079@nv. aif. or. jp